

高度専門教育 消火技術研修

第11期 令和7年1月29日(水)～31日(金)

【研修内容】()内は講師の所属

◆講義及び実技

●消火知識:建物構造と延焼危険(司令課・北方面隊)●実火災体験型訓練(司令課・南方面隊)●排煙(司令課・東方面隊)

◆講義

●調査の観点からみた消火活動(予防課・調査鑑識)●消火戦術(司令課・東方面隊)●再燃火災防止残火整理(司令課・東方面隊)●地震火災・津波火災(警防課・計画)●出場計画(警防課・計画)●安全管理(司令課・西方面隊)●情報管理(司令課・指令情報センター)●教育技法(訓練センター)●特殊火災対応Ⅰ(規制課・保安)●特殊火災対応Ⅱ(司令課・北方面隊)●特殊火災対応Ⅲ(規制課・危険物)

の方面隊には約2か月間におよぶ事前準備をしていただきました。研修当日は、研修生が身を乗り出して受講する様子が印象的でした。

本研修で用いたファイヤーコントロールボックスについては、研修後に希望者へ設計図を配布することも可能としています。そのため、消防署でも同じものを再現でき、火災現場を経験したことのない若年層職員の指導にも役立てることが出来ます。

センター教育・研修を徹底解剖

Just Do It!

第13回 できる指導者を育てる！消火技術研修

高度専門教育訓練センター



田中 沙弥

今月の担当教官(田中)のひとこと

消防の世界に入って6年目。事前準備や調整等の難しさを改めて痛感しながら、私自身、新たな成長に繋がる大きな経験となった研修でした。

今月は、高度専門教育の一つである「消火技術研修」について取り上げます。

本研修は、消火活動について高い知識及び技術を修得し、消火隊の指導者としての資質向上を図ることを目的としています。消火技術のプロフェッショナルによる指導のもと、とても充実した研修となりました。

昨年度は令和6年能登半島地震の発災で中止となったため2年振りの実施となりましたが、総員50名(25消防署及び20消防本部、1社)の方々にご参加いただきました。

消火技術指導者の役割

令和6年度大阪府消防局運営方針の経営課題1に、消火活動能力の向上が挙げられています。消火技術指導者を中心とした所属研修等の実施は、そのための取組でもあります。

消火技術指導者は、各所属において次の役割を担っています。

・消火に関する所属訓練の起案立案や実践・指導
各所属の代表として本部訓練への参画や意見提案の実施

・方面隊による消火技術に関する指導事項や警防情報等の所属職員への伝達
その他 方面隊との連絡調整

情報管理

担当 司令課・指令情報センター

本講義では、指令情報センターで経験を積んだ担当者から、実体験に基づいたアドバイスとともに、次のような「増強要請の判断基準」について解説されました。

「増強要請の判断基準」※参考 警防マニュアル

- ・面、角火災(1棟)燃焼面積70～80㎡以上かつ延焼危険あり。
- ・面、角火災において、複数の棟が燃焼。
- ・内火災において、他の棟に延焼している、あるいは延焼危険がある。

研修担当者からのメッセージ

小隊長として活動する者は、現場で自ら判断を迫られる場面を必ず経験することになります。そんな時は、思い切った増強をかけて欲しいです。自分で考え、判断し決断することは、なにより状況判断スキルの向上に繋がります。増強をかけた結果が空振りでも構いませんし、気にする必要もありません。途中で必要なければ、隊を削減してください。躊躇して延焼拡大に繋がるほうがよくないという考え方で、ぜひ臨んでいただきたいと思います。

「」では、「三」講座として「消火知識」(北方面隊)及び「情報管理」(司令課・指令情報センター)について取り上げます。

「消火技術研修」三講座

消火知識(建物構造と延焼危険)

担当 司令課・北方面隊

本研修は、講義と実技を組み合わせた研修内容を多く取り入れており、建物の構造や消防隊の活動影響による延焼の危険性について、実証実験等で確認しながら指導が行われました。

講義に実技を交えて行われた本講義では、石膏ボードで作成した模型「ファイヤーコントロールボックス」を3種類用意し(一般の木造建築物、木造の共同住宅、棟割住宅)、それらを実際に燃やしての室内火災、内廊下火災、棟割住宅火災における燃焼建物から未燃焼建物への延焼経路について検証しました。消防署で若年層に説明する際の助けになるように、担当



消火知識



特殊火災対応Ⅱ

実際の現場の映像を見た後、想定される活動方針についてグループ討議を実施

研修で得られた知識・技術を現場で生かしてほしい

本研修は、各所属及び各本部の消火技術指導者を、プロフェッショナルとして育成するにふさわしい、自身の濃い充実したものでした。グループワークでは、教室の外に声が漏れてくるほど積極的に意見交換が行われ、研修全体の雰囲気もとても良く感じられました。講師の方々のおかげで、とても充実した研修になった成果だと思っています。

最後に、研修生の皆さんには、本研修で得られた知識や技術を、消火技術指導者としてフィードバックするとともに、様々な気づきを今後の現場活動等に役立てていただけることを願っています。



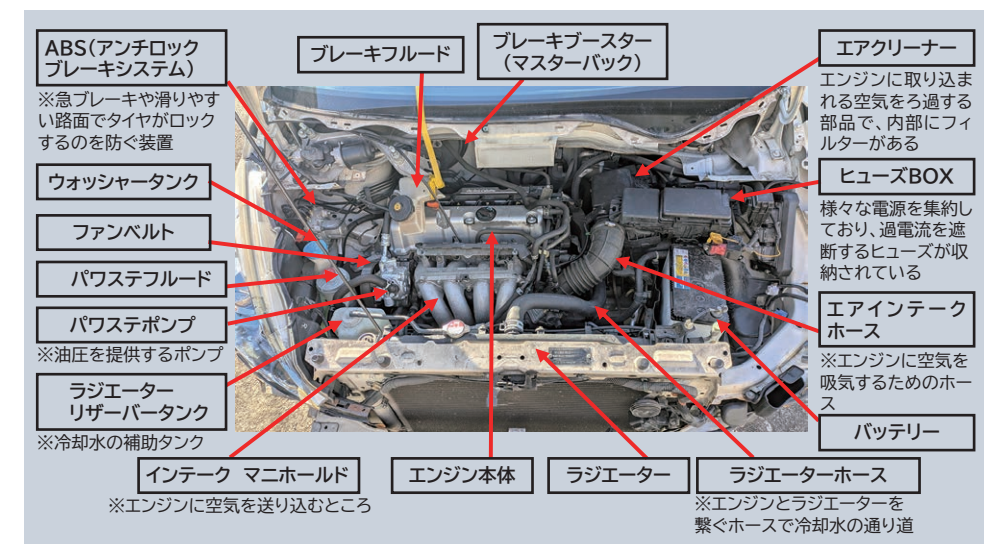
基本編

「調べて、広めて、市民を守る。」



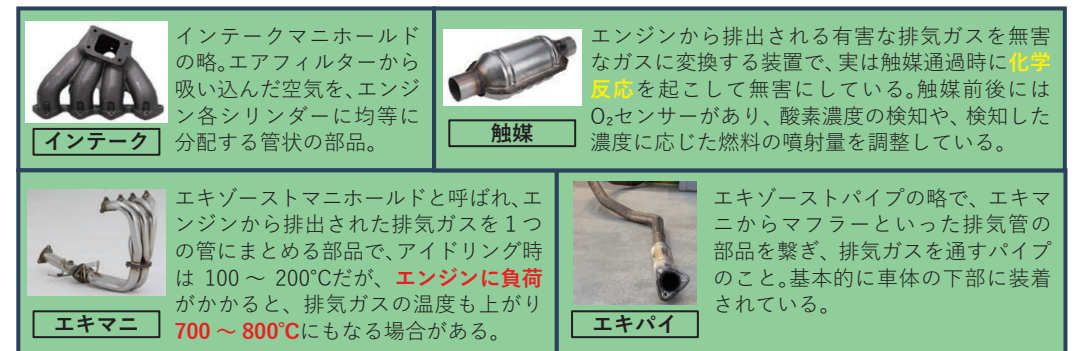
今年1月、火災調査育成研修で車両鑑識研修を実施しました。今回はその研修時に勉強した内容を紹介するね。まずは、車両(特にエンジン部分)の**名称**や**構造**を理解しておくこと今後の車両鑑識に生かせると思うので、簡単に説明するね。各メーカー、車種で配置は色々だけど、大体の構造は同じだから、覚えておいてね。

はい、車両鑑識は難しくて苦手です。特にエンジンルーム周辺の名称や構造がわからなくて不安なので、知りたいです。

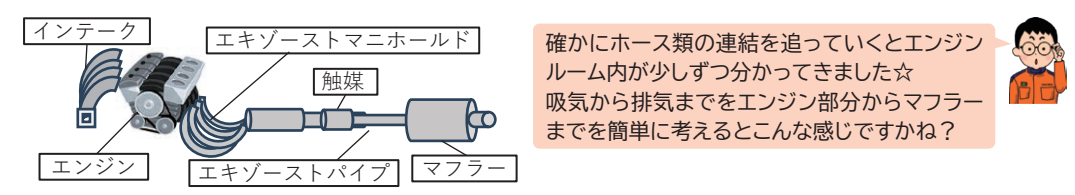


ラジエーターについて
中にはエンジンを冷やすための**冷却水(クーラント液)**が通っておりエンジンの熱で熱くなった冷却水を走行中の風で冷やすところ。冷却水がエンジン部に循環することで熱を吸収し、ラジエーターで再び冷やされた後、エンジンに戻り循環することで、**オーバーヒート**を防ぐ。冷却水は昔は水を入れたりもしたが、今は金属部の錆びや、凍結を防ぐ、**LLC(ロング・ライフ・クーラント)**という不凍液が使用されている。冷却水は、ウォーターポンプという装置で循環させている。

ファンベルトについて
エンジンの回転力で**プーリー**を利用して、他にもパワステポンプ、**オルタネーター**やウォーターポンプ、エアコンプレッサー、冷却ファン等の補機を駆動するゴム製のベルト。ベルトが切れるとエンジンのオーバーヒート、エアコンが効かない、オーディオの電源が落ちる、バッテリーへの充電不足などの不具合が生じる。

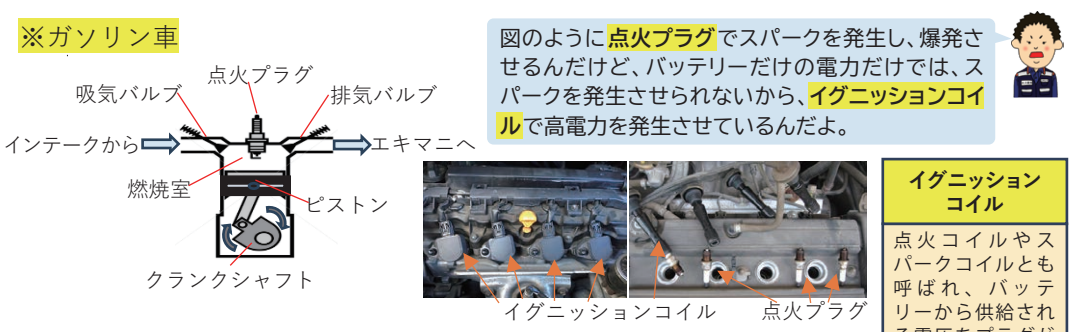


Point! 何となくエンジンルームの構造は理解できたかな? パーツ単体で見ると車種の違いもあり分りにくいけど、エアクリナーから吸気された空気が、インテークマニホールドでエンジン部へ送り込まれ、エンジン内部で燃料が燃焼され、排気管へ…。吸気から排気までのラインを追っていくと各パーツがどんな役割をやっているのかがイメージしやすいと思うよ。他にもラジエーターに繋がっているホースを見ると…リザーバタンクがあるように主要パーツの近くには関連部品があるよ。



そうだね。すごく簡単に考えるとこんな感じだね。インテークもエキゾーストマニホールドもエンジン内の燃焼機関となる気筒(シリンダー)の数の本数が出ているはずだよ。最近の普通車なら4気筒が多いから、それぞれ4本の管が見えるはずだよ。

エンジン部も簡単に言うと、右の図のように4気筒だと4つのシリンダーと言われる燃焼機関があって、この4つの燃焼室トータルの大きさが排気量となるんだ。燃焼室内ではピストンが「吸気」「圧縮」「燃焼」「排気」という4つの工程を繰り返す動作サイクルが行われており、4サイクルとか、4スト(4ストロークエンジン)と呼ばれるんだ。次は気筒内の構造を下の図で見てね。



なるほど、車の構造についてかなり理解できました! 車両鑑識時に専門用語がたくさん出てきて不安でしたが、**名称**と**役割**を理解できたので、自信が付きまして! 次回は火災事例で勉強したいです!!



面体の内側にタオルを詰めている。

足元注意！

おっと……



支えられて再挑戦！

2月13日には、安全管理の実技授業を行った。
メインストレッチャーの危険性の確認や、完全に視界を奪われた状態での検索活動を行った。
場面は違えど、隊員間でのコミュニケーションの重要性を身をもって感じる授業になった。
また、同日に、外来講師として、保安・防災アドバイザーの東野郁夫講師をお招きし、「燃焼と消火」の授業を行った。
授業では、ガソリン等を使用した燃焼実験を行い、気化した危険物の特性などを理解する貴重な経験となった。

ウィアー ルーキーズ！ 大阪府立消防学校 初任教育生 月間報告

We areookies
W e a r e R o o k i e s !



フラットリフト



スクープストレッチャー



車外救出



除脳硬直



除皮質硬直



2月

近況報告
(想定訓練)

傷病者役の演技力も
格段に向上を見せている！



評価もフィードバックも
学生同士で行っている。

第117期生の教育課程もいよいよ佳境に入っている。
実科訓練では、生活を共にする班員だけでなく、その日、即席で決められた班員で訓練に臨むことも多くなり、消火・救助・救急すべての実科訓練で想定訓練を繰り返す毎日が続いている。
学生は、3月には卒業し、各所属で災害現場対応を担うことになるが、残りの期間も、実践的な想定訓練に励むこととなる。

まだまだ無線に苦戦。



屋内進入



梯上放水



暗中検索



忠岡町消防本部

消防本部の仮眠室等改修工事を
実施しました!

新型コロナウイルスやインフルエンザ等による感染症の職員間での蔓延防止を主な目的として、令和6年10月から消防本部仮眠室等の個室化改修工事を行ってまいりましたが、このたび、完成いたしました。

今回の工事では、仮眠室の個室化や洗面脱衣所及びシャワー室を改修整備するとともに、女性職員の専用部屋を新設いたしました。

従来の仮眠室は、簡易型の2段ベッドでしたが、今回新たにカプセルベッドを導入したことでよりプライバシーを配慮した快適な環境となりました。

また、従来では女性職員に対応している施設がなく、毎日勤務となっておりましたが、改修工事に伴い隔日勤務が可能となりました。

今回の仮眠室等個室化改修工事により職員間での感染対策が図られました。

また、女性職員の活躍推進に向けた活動の場が広がりました。



松原市消防本部

文化財防火デーに伴う
合同消防訓練を実施

松原市消防本部では、令和7年1月25日（土）、松原市内の布忍神社において神社関係者と消防本部・消防団が連携し、文化財防火デーに伴う消防訓練を実施しました。

訓練は神社本殿から出火したという想定で、神社関係者は初期消火や参拝者の避難誘導、文化材の搬送訓練を行い、消防本部・消防団は敷地内に設置した防火水槽を使用し、神社本殿に向けて放水訓練を行いました。

今回の訓練を通じて、神社関係者はもとより、消防本部・消防団においても改めて災害時の活動内容を再確認する貴重な機会となりました。

今後につきましても、神社関係者をはじめ、消防本部・消防団が連携した訓練を継続して行い、文化財の保護に努めてまいります。



八尾市消防本部

八尾市消防本部の公式
Instagramがスタートしました!

八尾市消防本部は、地域の皆様に消防活動や防災情報をより身近に感じていただくため、公式Instagramを開設しました。火災予防や救急活動、地域イベントの情報をリアルタイムで発信し、幅広い世代の方々に消防への理解を深めていただくことを目指しています。

全職員が投稿者となり、日常の消防活動や職員の紹介、さらには八尾市幼年消防クラブや大学の学生消防隊SAFETYとのコラボ動画など、多彩なコンテンツをお届けします。

投稿はシンプルな方法で行い、動画や画像を準備し、所属長の承認のみで速やかに情報を発信できる環境を整えました。

開設からわずか3か月で700人以上のフォロワーを獲得し、#イベント告知や#予防救急啓発などのハッシュタグを通じて、多くの方々にご覧いただいています。

今後も、地域の安全・安心を守るため、様々な情報を発信してまいりますので、ぜひフォローして最新情報をチェックしてください。



豊中市消防局

市立豊中病院に
消防局の救急救命士が常駐

高齢化の進展に伴い、市立豊中病院の救急車の応需は過去最大を更新し続けている状況です。

そのため、市立病院と消防局で協議のうえ、応需率向上への対応策として、消防局の救急救命士が市立病院の救急診療現場に常駐する取組を今月から開始しました。

消防局の救急救命士が救急診療現場に入ること、救急診療部門の人員を確保し、救急応需の向上につなげるとともに救急救命士の知識・技術の向上をめざす取組です。

救急救命士の主な任務は、医師の診療の補助として救急救命処置にあたるほか、Orionシステムへの入力など、救急診療部門のタスクシフトの担い手となることです。

今後も消防局と市立病院間で課題共有、協議を重ね、応需の向上と救急救命士の研修体制の充実への新たな取組につなげてまいります。

3 情報の効果的な発信 ～ SNS時代の広報活動 ～

かつては、情報発信の主流はテレビや新聞といったマスメディアで、独自に情報発信できるツールがありませんでした。

しかし、近年ではホームページでの発信やSNSが若者を中心に現代のコミュニケーション環境における重要なツールとなっています。とくに、SNSは写真や動画などを組み合わせることで、わかりやすく情報発信することができる、広報ツールとしても欠かせないものとなっています。伝えたいターゲットを意識し、発信する媒体を使い分けることが大切です。

マスメディア

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など、広く一般に情報を届けるための媒体

メリット：信頼性が高く、広い影響力がある

デメリット：発信者が情報をコントロールすることが難しい
→ オウンドメディアの活用！

オウンドメディア

HP、機関誌、SNSなど、自分たちが保有している媒体

メリット：発信者が直接情報を発信できるため、メッセージをコントロールしやすい

デメリット：信頼性や影響力を高めるには時間がかかる
→ 正確性やエビデンス(裏付ける根拠)が必要

4 大阪市消防局公式SNSの取組

大阪市消防局では、公式SNSとしてFacebook、YouTube、Instagram、Xを活用し、独自に情報発信しています。

私たち広報担当も、正確な情報を発信することを前提に、ひとりでも多くの市民の方に興味を持っていただけるよう、写真や動画で視覚的に関心を引く方法や、読みやすい、理解しやすい文章作りなどを毎日模索しながら、「伝わる広報」を目指して日々発信しています。

5 これからの広報

膨大な情報が溢れている中、以前にも増して多様で人の関心を引きつける情報発信の必要性が高まっています。広報担当者としても、工夫を凝らしながら発信しているところですが、各担当者の皆さんもなんらかの事業を行う際には、それをどのように広報していくかという視点を意識していただきたいと思います。

このコーナーを通じて、各担当者の皆さんとともに今まで以上に魅力のある広報を行えるよう、広報発信する時のポイントをお話ししていきたいと思っています。

ひとりひとりが広報担当！
みんなで「伝わる広報」を！

淀橋広子の 広報講座



伝える広報から伝わる広報へ！
消防が行う広報について、部署を問わず皆さんに知っておいてほしいことを
広報係長 淀橋広子が
レクチャーします。

淀橋広子>>>前職は広告プランナー。人を助ける仕事に就きたいと消防の世界へ入った。
前職で培った経験を活かし、時代の変化に沿った効果的な情報発信のノウハウを伝授したいと息巻く。

今回のテーマ
第1回
消防の広報って
なんのため？

1 消防の広報とは？

消防の「仕事」や「取組」を正確にわかりやすく発信することによって、市民の皆さんに消防を身近に感じていただくとともに正しい防火防災、救命措置などの知識を身につけていただき、ひいては消防と市民の皆さんがともに安全で安心な暮らしの実現を目指すための一つの手段として、広報活動は大切な役割を果たしています。

2 ひとを動かす広報とは

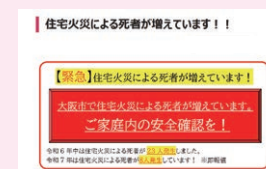
広報の最終目的は、発信した内容に関して市民の皆さんの行動につながっていくことです。消防側から発信し、受け手となる市民の皆さんの行動につながるまでのプロセスにはいくつか段階があります。本年1月にホームページやSNSで発信した「住宅火災による死者が増えています」を例にご紹介します。

消防は

【発信】 画像・動画を作成し、HP、SNSで発信する



消防局HPバナー



消防局HP



消防局Instagram 動画投稿

市民に

【認知】

発信した内容を最後まで(すべて)見ってもらう



【理解】

前年比などの根拠データや実事例など、伝えたいことに対して納得してもらう



【共感】

もし火事が起きたら怖い、どうしたら良いのなど、自分事として感じてもらう



【行動】

火の元の確認、消防訓練を行ってもらうなど、火災を予防するための行動を行ってもらう

